

成果指標				
成果指標	低金利時代を反映し、政府資金の利率については低利で確定しているが、市中銀行からの借入れについても入札制度を導入し、借入れ利率3.0%以下とする。			
指標設定の考え方	厳しい財政状況における将来負担の軽減を図り、後年度の世代に実質的な負担を残さないためにも、なるべく有利な起債を選択する。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	3	3	3	3
実績	0.387	0.865-0.143	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	今後も縁故債については、入札方式により、より低金利での起債に努める。また、今後の事業を把握し、計画的な起債管理を行うとともに、市債発行額を毎年度削減し、残高を増加させないよう努める。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	将来にわたり持続可能な財政運営が担保されるよう、実際の財政事情を分析・反映させた中長期の財政計画をたてなければならない。起債についても、この枠組みの中で、本市の財政規模や財政状況に見合う市債残高の目標額を定めて計画的に管理していく。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	今後、中長期の財政計画を実効性のある計画とするためには、適正な起債管理が必須である。市財政の健全な運営を図るために、起債に関する基本的な考え方や方針を決定する必要がある。

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。